

近畿中国森林管理局における シカ被害対策の取組 (令和 7 年 1 1 月)

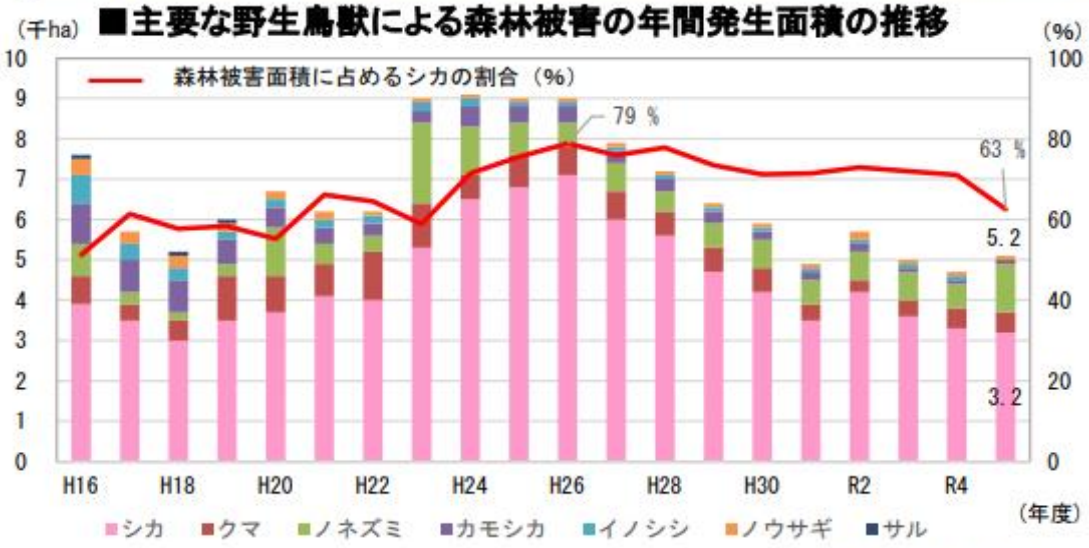
近畿中国森林管理局

森林被害等の現状

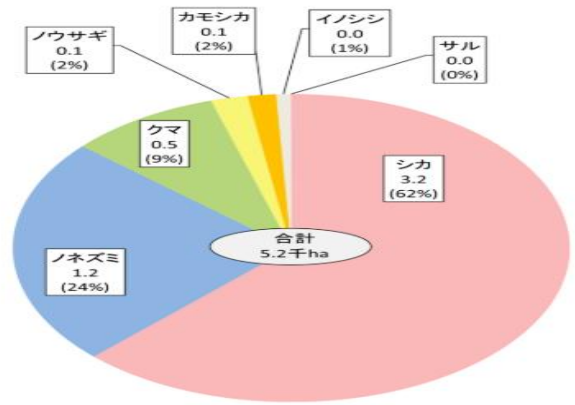
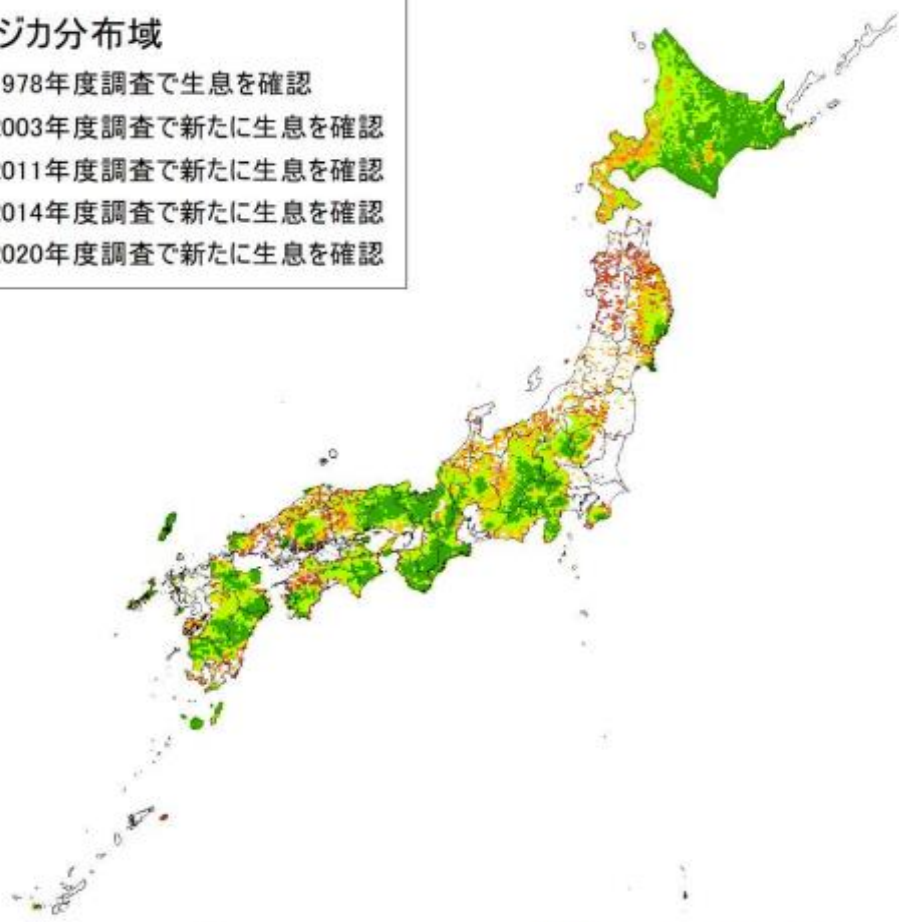
森林における鳥獣害対策について ～森林被害等の現状～

(1) 森林における鳥獣害の現状

- 近年、野生鳥獣による森林被害発生面積は減少傾向にあるものの、長期にわたるシカの生息数の増加及び生息域の拡大により森林の被害は深刻な状況にあり、全国の森林の約3割でシカによる被害が確認。
- 令和5年度のシカ被害発生面積は約3.2千ヘクタールで、野生鳥獣による森林被害の約6割を占めるとともに、シカの生息分布は1978年以降大きく拡大しており、2018年までの40年間で分布域が約2.7倍に拡大するなど、深刻な状況。



■ニホンジカ 全国生息分布メッシュ比較図



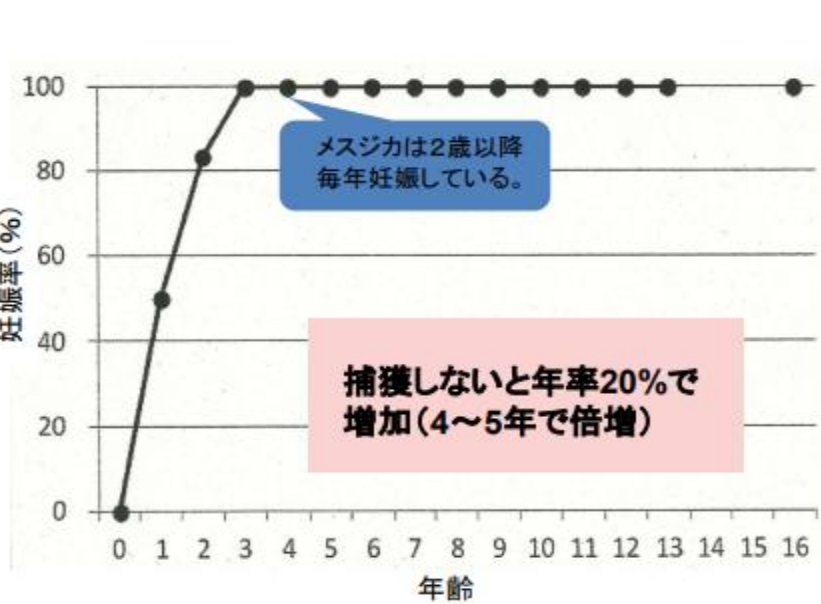
注1 都道府県等からの報告による、民有林及び国有林の被害面積の合計。
2 都道府県別内訳は添付資料のとおり。
3 割合については、四捨五入のため、合計は必ずしも一致しない。

森林における鳥獣害対策について ～森林被害等の現状～

(2) シカ個体数の推移

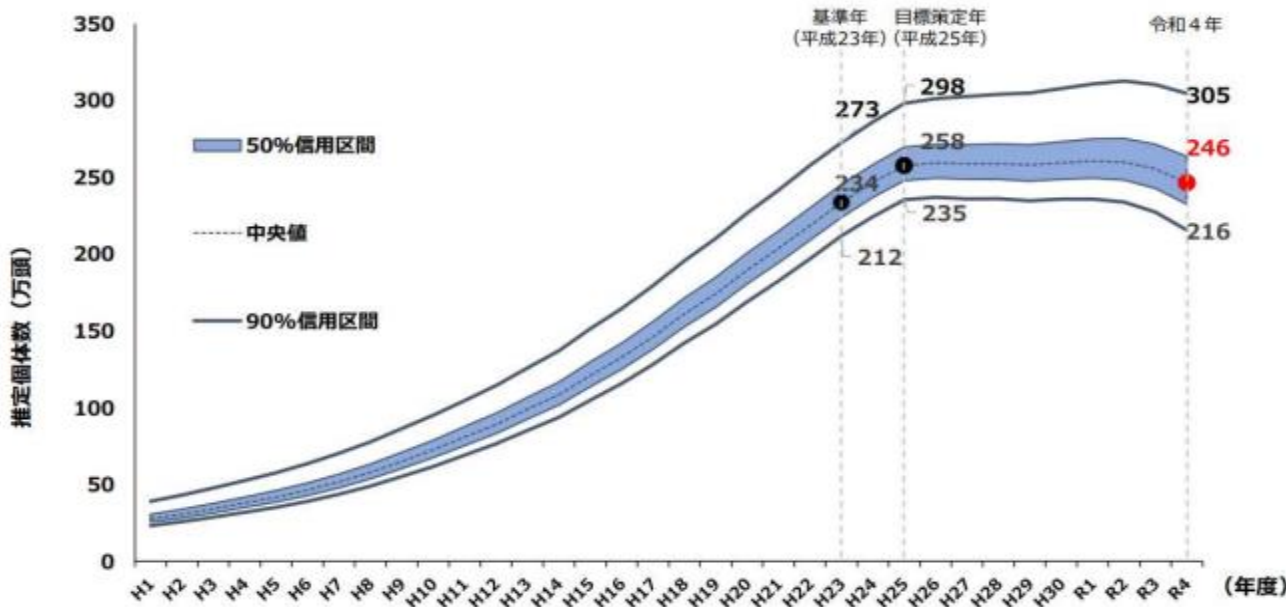
- シカは繁殖力が高く、捕獲しないと年率約20%で増加し、4～5年で個体数は倍増。
 - 環境省の推計では、北海道を除く本州以南には令和4年度末で約246万頭(中央値)のシカが生息しており、依然として高い水準で推移(※)。
- (※) 北海道については、北海道庁が独自に個体数を推定しており、令和5(2023)年度の推定個体数は東部地域31万頭、北部地域20万頭、中部地域22万頭、南部地域3～22万頭と推定。

■ 静岡県富士地域における齢別妊娠率



※ 静岡森林管理署シャープシューティング調査結果より作成

■ 統計手法によるニホンジカの個体数推定(北海道を除く)



- ※ 令和4(2022)年度の自然増加率の推定値は、中央値1.19(90%信用区間:1.16-1.22)
- ※ 令和4(2022)年度の北海道の推定個体数は、東部地域32万頭、北部地域19万頭、中部地域21万頭、南部地域3～18万頭(北海道資料)

環境省資料(令和6年4月)

森林における鳥獣害対策について ～森林被害等の現状～

(3) シカによる影響・被害1

植栽木への食害



北海道
胆振地域 連続した枝葉の食害により盆栽状になったカラマツの植栽木



山梨県
富士山周辺 シカの剥皮による植栽木(幼齢木)の枯損



静岡県
富士山周辺 シカの食害を受け成林が見込めないヒノキ新植地

シカによる樹皮剥ぎ



北海道
知床 エゾシカによる広葉樹の樹皮食害



長野県
東信地域 カラマツ人工林におけるシカの剥皮害



滋賀県
霊仙山周辺 スギ人工林におけるシカの剥皮害

森林における鳥獣害対策について ～森林被害等の現状～

(4) シカによる影響・被害2

下層植生の衰退



神奈川県 丹沢地域
ヒノキ人工林におけるシカの食害
による下層植生の消失



三重県 雲出川上流域
天然林におけるシカの食害による
下層植生の消失(一部表層崩壊)



和歌山県 護摩壇山周辺
シカの食害により下層植生が
アセビに単一化

食害による裸地化



三重県 大杉谷周辺
人工林におけるシカの食害による
無立木地化



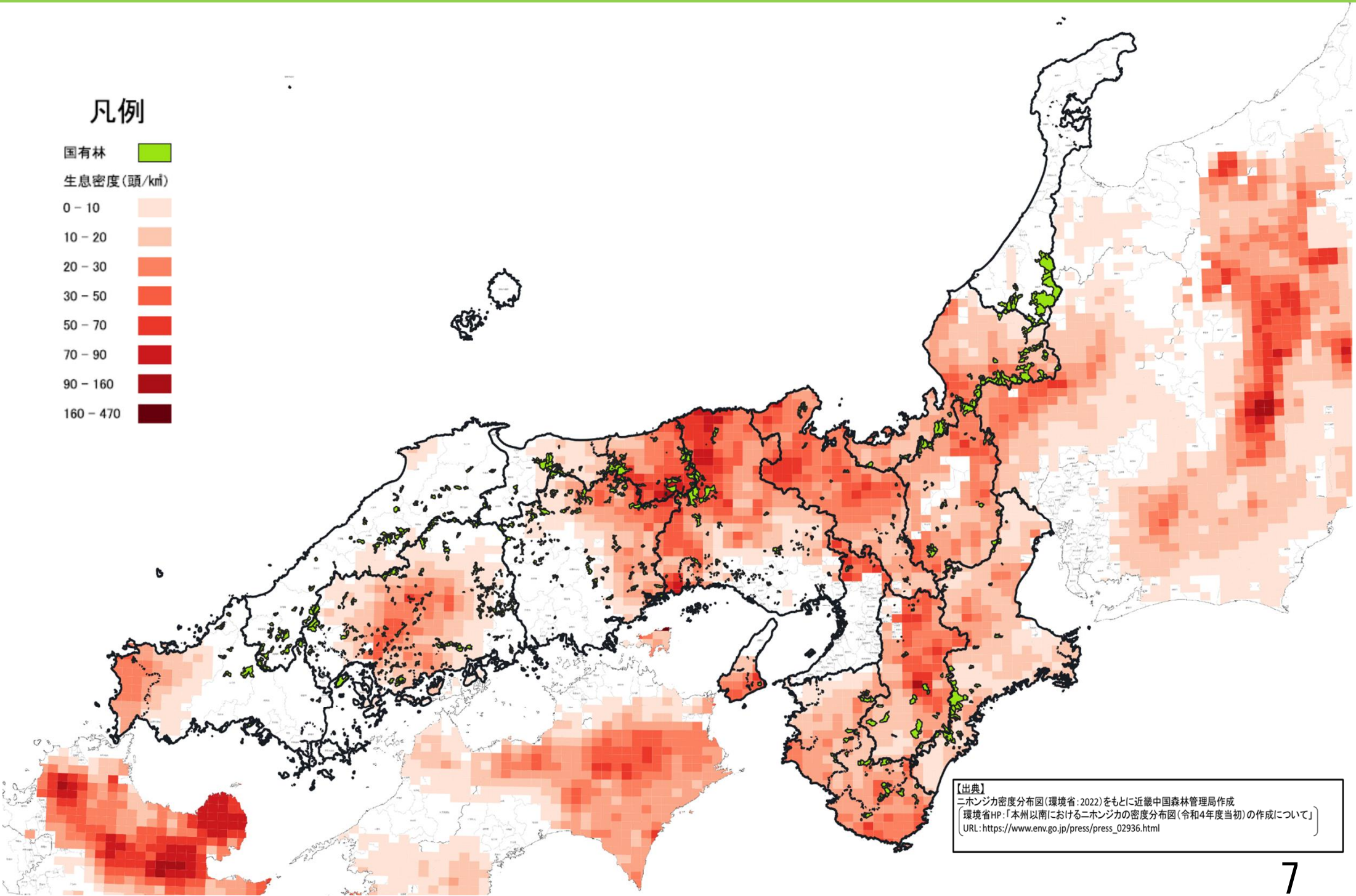
高知県 三嶺周辺
シカの食害によりミヤマクマザサが
枯死し、裸地化(防護柵内のみ植生
が残っている)



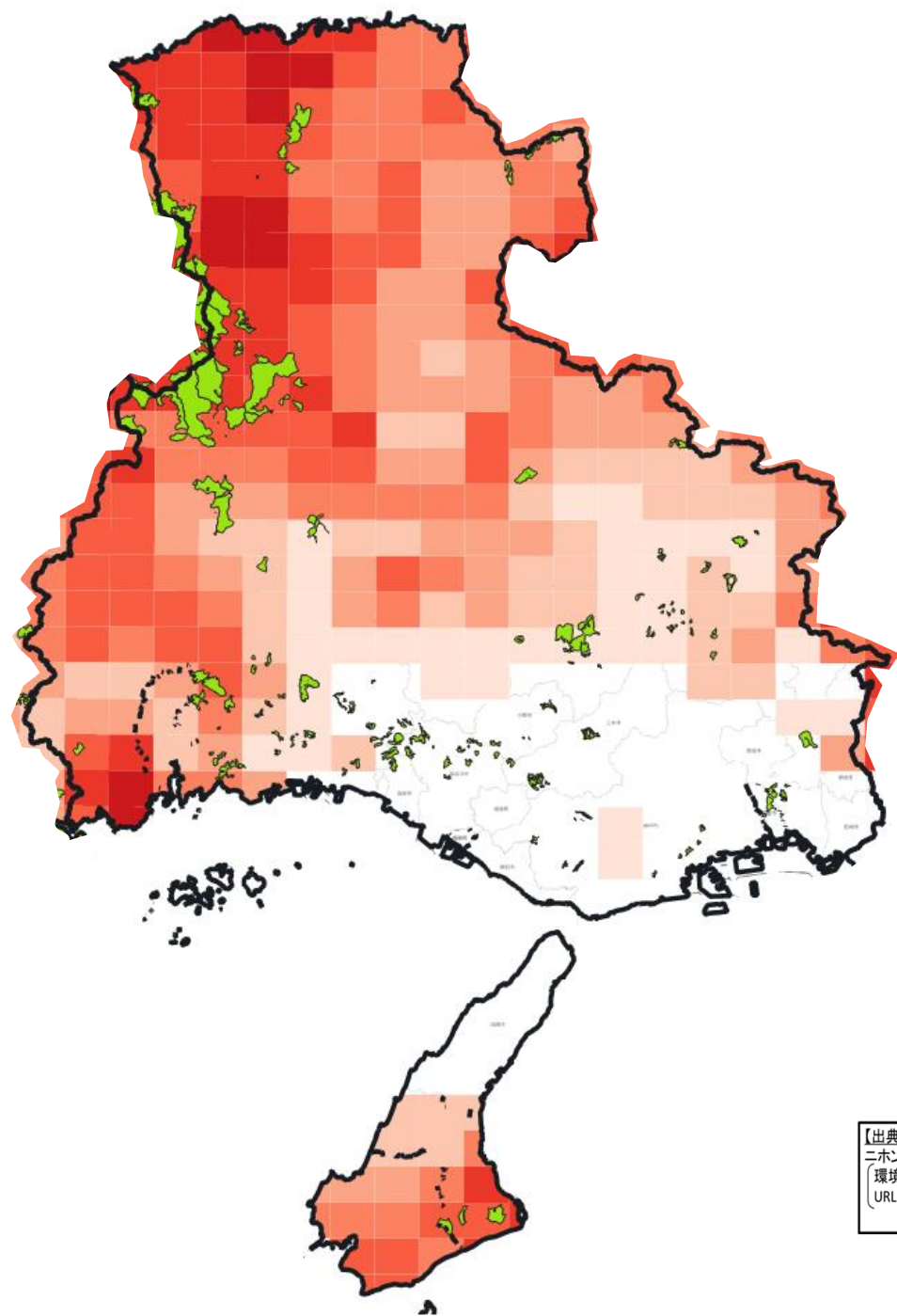
長崎県 対馬
シカ食害による土壌流出

近畿中国森林管理局管内国有林 におけるシカ被害対策

近畿中国森林管理局におけるニホンジカの生息密度



近畿中国森林管理局におけるニホンジカの生息密度（兵庫県）

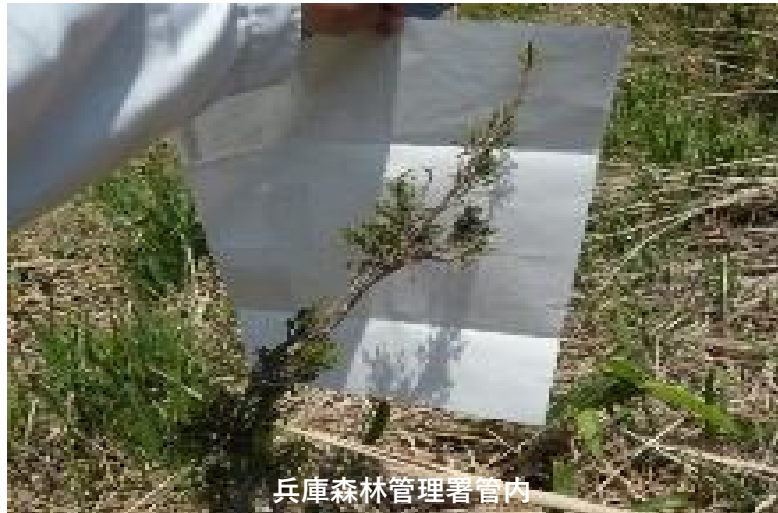


【出典】
ニホンジカ密度分布図(環境省:2022)をもとに近畿中国森林管理局作成
環境省HP:「本州以南におけるニホンジカの密度分布図(令和4年度当初)の作成について」
URL: https://www.env.go.jp/press/press_02936.html

近畿中国森林管理局管内国有林におけるシカ被害対策について ～森林被害の状況～

近畿中国地方では、ニホンジカの個体数の増加と分布域の拡大が著しくなっており、管内の国有林においても苗木の食害や災害等の下層植生の衰退等が発生し、一部で被害が深刻化しています。このまま下層植生が無くなると土壌流出のほか、土砂スクも高まることが危惧されています。このような被害を防止するため、地域と一体となったシカ被害対策の推進が重要であることから、地域との情報共有を図り、効果的なシカ被害対策の実施に取り組んでいます。

【苗木の食害】



【下層植生の食害】



【樹皮剥ぎ】



【土砂の流出】



近畿中国森林管理局管内国有林におけるシカ被害対策について～捕獲等の推進～

【シカ捕獲対策】

足くくり罠や囲い罠等による捕獲等に府県・市町村・猟友会等地元関係者と連携して取り組んでいます。

足くくり罠による捕獲
田辺市（和歌山森林管理署管内）



囲い罠による捕獲
米原市（滋賀森林管理署管内）



【新植箇所等の保護】

新植箇所等の苗木等の保護を図るため防護柵等を設置し、侵入・食害の防止に取り組んでいます。

防護柵（斜め張り）の設置状況
備前市（岡山森林管理署管内）



立木を活用した防護柵の設置状況
箕面市（京都大阪森林管理事務所管内）



【生息状況等の調査】

シカ被害対策を効率的に実施するため、糞塊密度調査、自動撮影カメラや目撃情報による生息状況調査、植生調査等のモニタリング調査を実施しています。

自動撮影カメラを使った調査
大台町（三重森林管理署管内）



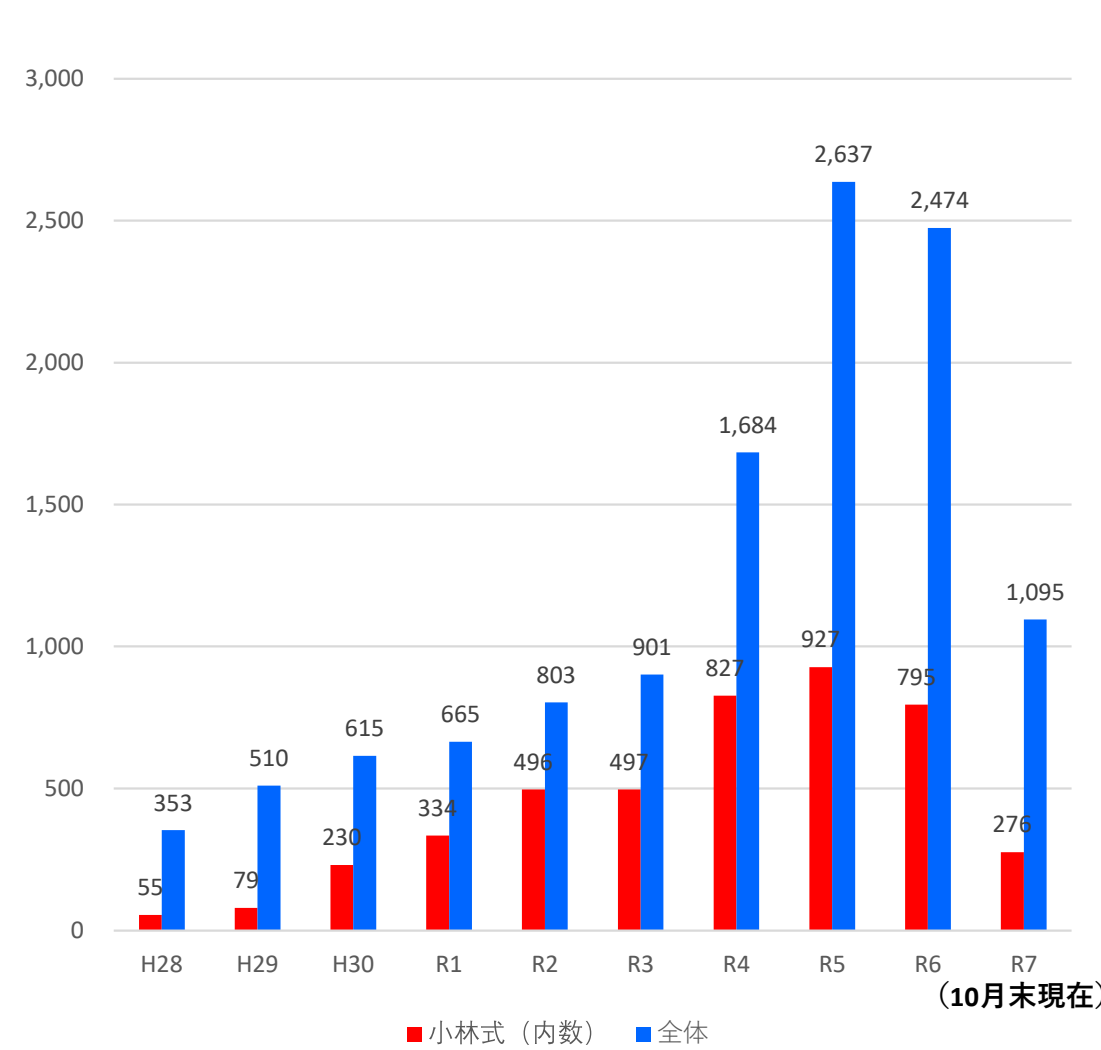
GPSテレメトリー調査
箕面市（箕面森林ふれあい推進センター）



近畿中国森林管理局管内国有林におけるシカ被害対策について ～効率的な捕獲～

ニホンジカによる苗木の食害や下層植生の衰退などの被害が発生しているため、新植地の防護とあわせて、職員が開発した初心者でも効率的にシカを捕獲できる小林式誘引捕獲法の普及や捕獲した個体処理の負担軽減のため大型排水管を活用した残渣処理の実証試験に取り組んでいます。

近畿中国森林管理局によるシカ捕獲頭数の推移



小林式誘引捕獲法



餌の中心に罠を設置



罠の周囲を石で囲むことで罠の中心を踏ませるよう工夫

大型排水管を活用した残渣処理 (実証試験中)



埋設した大型排水管

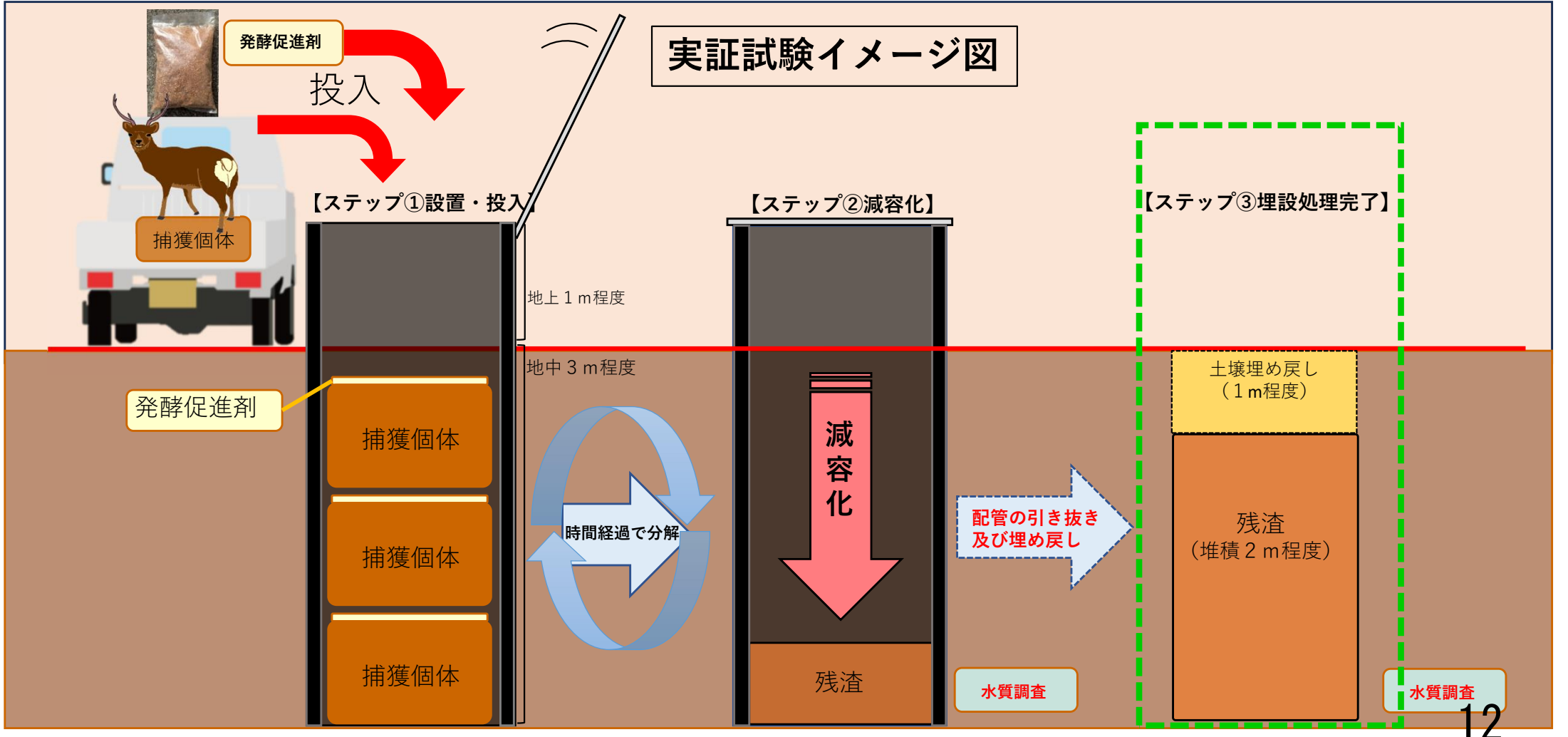


ボカシ、もみ殻 (発酵促進、腐敗臭軽減)

○効率的な捕獲個体の残渣処理（大型排水管の活用）

近畿中国森林管理局（和歌山森林管理署等）では、現場埋設の前処理として林道脇のスペースに大型排水管(直径 1 m、長さ 4 m)を縦置きで埋設し、その中に捕獲個体と発酵促進剤(ぼかし剤)を投入し、自然分解により減容化する実証試験に取り組んでいます。和歌山森林管理署におけるこれまでの実証結果では、捕獲個体を累計で約100頭投入した場合の残渣のかさ高は1 m程度となっており、個体処理の効率化が期待できる。また、従来の埋設処理と違い、クマやイノシシなどに掘り返されることがないという利点もあります。

今後、排水管を抜き取り土を埋め戻す作業のコストや周辺の土壌水成分への影響についても調査を行うなど実証を重ねつつ更なる改良と普及を目指すこととしています。



近畿中国森林管理局管内国有林におけるシカ被害対策について ～プロフィール作成～

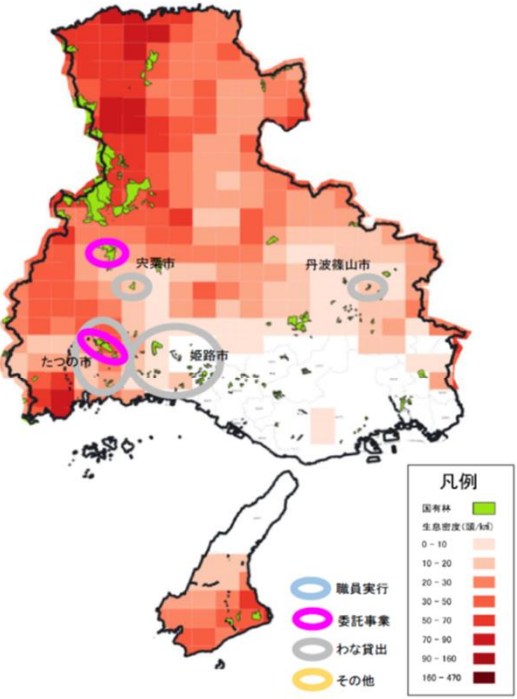
近畿中国森林管理局では、管内の森林管理署等においてシカ捕獲プロフィールを作成し、地域毎の対策に取り組んでいます。

また、林野庁本庁においても森林管理署等の取組事例について、プロフィールとして取りまとめ、情報共有を図ることにより、全国各地の実態に応じてより効果的に進めていくこととしています。

林野庁: https://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/shinrinhigai.html

近中局: <https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sodateyou/171225.html>

シカ密度分布図



兵庫森林管理署 管内の状況 (R7年6月時点)

・管内の状況(推計生息数、生息密度、被害状況、捕獲状況等)
兵庫県のシカ生息数は、平成22年まで増加を続けていたが、平成22年度以降は捕獲強化により、わずかな増減を繰り返しながら、令和3年度以降は減少に転じている。
また、令和4年度および令和5年度は捕獲の年度目標(46,000頭)に達しなかったことで、推定生息数は緩やかに減少するにとどまっており、令和5年度の推定生息数は15万1千頭となっている。
生息密度は、南但馬地域および西播磨地域において非常に高い状況になっている。^{*1,*2}

・被害状況
兵庫県では依然としてシカの生息密度が高く、シカの食害による被害が多く見られ、姫路市・たつの市等の国有林から農地へ侵入するシカが多く農作物の被害も発生しており対策の要請がある。

・取組状況
河原山国有林(兵庫県)、鶏籠山国有林外(たつの市)にてシカ捕獲事業を委託している。
本谷国有林(兵庫県)では三谷地区自治会との「兵庫県三谷地域におけるシカ被害対策推進協定書」を締結しシカ捕獲を行っている。
兵庫県神戸県民センター・たつの市・高砂市・丹波篠山市・姫路市と「有害鳥獣駆除に係る協定」を締結し、各自治体が国有林内でシカ捕獲等を実施している。

・成果
R6年度の捕獲頭数は、委託事業で69頭、三谷自治会で15頭、協定先で1頭、県指定管理鳥獣捕獲等事業で39頭であった。

・課題
兵庫県市内でのシカ捕獲事業は狩猟期以外には実施できていない。

引用文献
*1. 第3期ニホンジカ管理計画(兵庫県 2025)
*2. 兵庫県森林動物研究センター HP

協定相手方	締結時期	開始年度	協定期間	更新の有無	更新期間	協定の主な内容	R6捕獲実績
兵庫県神戸県民センター	H25.2.27	H24	R6.4.1~R9.3.31	有	乙から申し出があり、甲がこれを認める場合	防護柵の設置、維持管理、効果等の検証	無
丹波篠山市	R4.4.18	H27	R4.4.18~R7.3.31(3年)	有	乙から申し出があり、甲がこれを認める場合	捕獲場所の提供(稲等)	有
高砂市	R3.2.10	H29	R6.4.1~R9.3.31	有	乙から申し出があり、甲がこれを認める場合	捕獲場所の提供(稲等)	無
たつの市	R6.6.28	H26	R6.6.28~R7.3.31	有	意思表示がない場合、毎年自動更新	捕獲場所・残遺処理場所の提供、わな等貸出、防護柵設置	無
兵庫県三谷自治会	R4.4.1	H29	R4.4.1~R5.3.31(農林4年延長)	有	R8年度まで自動更新	捕獲場所の提供(稲等)、わな等貸出、林道ゲートの鍵の貸与	有
姫路市	R3.9.6	R3	R6.4.1~R7.3.31	有	乙から申し出があり、甲がこれを認める場合	捕獲場所の提供(稲等、わな)	無

※R6.6.28付でたつの市の2協定を統合

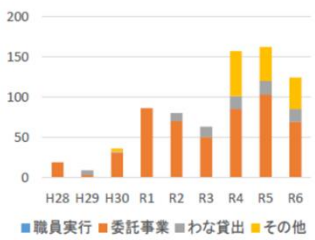
協議会

参加協議会等の名称	主な構成機関	協議会等の主催者(中心)
たつの市獣害防止対策協議会	たつの市 兵庫森林管理署 兵庫県光都農林振興事務所 たつの市森林組合 猟友会たつの支部 篠籠支部 マタギの会 自治会長 農会長 兵庫県森林動物研究センター	たつの市
兵庫県鳥獣被害防止対策協議会	兵庫県 猟友会兵庫県支部 自治会長 農会長 兵庫県農業協同組合 兵庫県西農協 兵庫県森林動物研究センター	兵庫県

捕獲頭数

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
職員実行									
委託事業	19	3	31	88	70	50	85	103	69
わな貸出			6	1	10	13	16	17	16
その他				4			56	42	39
計(イノシシ)	19	9	36	86(1)	80	63(21)	157(10)	162(5)	124(8)

※その他は、県の指定管理鳥獣捕獲等事業



委託事業

		R3	R4	R5	R6
鶏籠山外	捕獲頭数	50	40	59	45
	目標捕獲頭数	70	50	60	50
河原山	捕獲頭数	-	45	44	24
	目標捕獲頭数	-	50	50	50

協定等

捕獲頭数	R1	R2	R3	R4	R5	R6
丹波篠山市			3	5	6	1
高砂市					(3)	(4)
たつの市(伝馬山)			(11)			
たつの市(野田山西)						
三谷自治会		10	10(10)	11(10)	11(2)	15(2)
姫路市	-	-				(2)
県指定管理事業				56	42	39

※()はイノシシ

その他

- ・事業量が多く、シカ被害の激しい兵庫県市内での取組が課題。
R6年度は兵庫県と調整し、狩猟期間内の短期間であるが河原山で捕獲委託事業を実施。
- ・R6年度県が北部で実施している指定管理鳥獣捕獲等事業の捕獲実績を確認した。
- ・R6年度、「大型排水管を活用した有害鳥獣捕獲個体の埋設処理方法」について現地検討会を開催した。

MEMO
・兵庫県市内での捕獲について、R6年度同様委託事業を実施。
あわせて兵庫県を通じて有害捕獲での連携を模索する。
・指定管理鳥獣捕獲等事業について、国有林内の実績を把握。

参考資料

(参考) 小林式誘引捕獲法 (罠の設置方法)

初心者でも
簡単捕獲!!



くくりわなを使用した新たなシカ誘引捕獲法

小林式誘引捕獲法

●小林式誘引捕獲法とは

林野庁職員（小林正典氏）が考案した捕獲方法で「くくりわな」の周囲に石や誘引するための餌をドーナツ状に設置し、前足がわなにかかりやすくなるよう工夫することで、シカに警戒されにくく、初心者でも簡単に効率良く捕獲できる手法です。餌次第でイノシシ等の捕獲も可能になります。



▲ 設置の様子
(わなの周囲を石で囲み、さらにドーナツ状に餌をまく)



◀ 使用する「くくりわな」
押しバネ+ワイヤー跳ね
上げ式がオススメ

捕獲のイメージ▶



●小林式誘引捕獲法のメリット

- ▶餌で誘き寄せて捕獲するため、けもの道にわなを設置する必要が無く、特別な技術が不要で捕獲効率も高い
- ▶車でアクセスしやすい場所に設置できるため、捕獲後の見回り、止め刺し、運搬が容易。また、車から確認しやすいため、安全性が高い
- ▶けもの道以外に設置することで、クマやカモシカなどの錯誤捕獲が少ない
- ▶短期集中でわなを設置できるのでトータルコストが大幅減

～小林式誘引捕獲法ではこんな場所でもシカが捕獲できます～

<河川敷での捕獲例>



▲護岸にワイヤーを根付け

<休耕田での捕獲例>



▲灌木にワイヤーを根付け



詳細については、
こちらからご覧に
なれます。
(林野庁HP)



設置方法はYouTube
でもご覧になれます。

設置方法

小林式誘引捕獲法



①木の選定



②リードをシャックルで固定



③罠が埋まるサイズの穴を掘る



④塩ビ管を置いて深さをチェック

設置方法

小林式誘引捕獲法



⑤塩ビ管の周囲に石を並べる



⑥踏み板にワイヤーをセット



⑦バネを圧縮し固定



⑧塩ビ管の上に踏み板をセット

3

4

○大型排水管を活用した効率的な捕獲個体の残渣処理

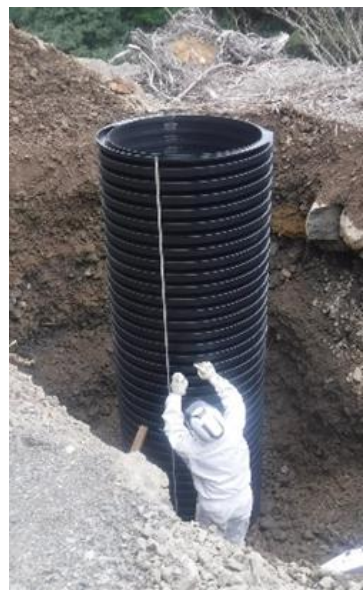
大型排水管と発酵促進剤（ボカシ）を利用した残渣処理の実証に取り組んでいます。
金属製の蓋を設置することで、ツキノワグマ等による掘り起こしを防止することができます。



埋設した大型排水管



捕獲個体を投入した内部の様子
（日照、気温、標高等の条件のほか、
投入頻度によるが、1基で70～120頭
（最大で200頭程度）の処理が可能）



地上部1m、地下部3m程度で埋設



臭いでクマが誘引される場合もあるが、
執着することはなかった

ポイント！

○設置費用、日数

- ・これまでの事例では60～70万円程度（長さ4m、直径1m）
- ・重機を使用した場合、1～2日で設置が可能。
- ・大型排水管はポリエチレン製や金属製のものを活用、落下防止、クマ対策のため金属製の蓋は必須。

○設置場所

- ・無臭ではないので集落周辺を避ける。
- ・水質保全のため谷部を避け尾根部、盛土等の水の影響の少ない場所。（R7より水質調査を実施予定。）
- ・管理しやすいよう、ゲートなどを施錠できる場所。
- ・軽トラックの荷台等から直接投入できる場所。



【令和6年12月設置】

兵庫森林管理署で設置した改良型 【改良点（臭気対策）】

大型排水管と別構造とすることにより強度を確保、下部の一部を土に埋設し臭気軽減の効果を見込む。また三つ折り構造により蓋開閉時の軽減を図る。

(参考) 大型排水管を活用した効率的な捕獲個体の残渣処理 (実証試験データ)

処理個体は時間の経過とともに発酵、分解が進んで骨と皮のみになり、かさ高も減少！

和歌山署の実証データ 1 (西ノ河国有林妹尾支線)

	R4.5	R5.6	R6.1	R7.5
累計処理頭数	76	90	100	121
かさ高 (m)	1.4	1.1	1.3	1.4

材質：ポリエチレン製管



排水管内の様子 (ボカシと共に投入した個体)

和歌山署の実証データ 2 (西ノ河国有林39林班線)

	R4.5	R5.6	R6.1	R7.5
累計処理頭数	33	60	110	170
かさ高 (m)	0.9	0.3	1.1	1.7

材質：ポリエチレン製管



排水管内の様子 (骨と皮のみとなった個体)

三重署の実証データ (大杉谷国有林)

	R5.12	R6.11	R7.6
累計処理頭数	39	52	56
かさ高 (m)	0.8	1.0	1.4

材質：ポリエチレン製管

	R5.12	R6.6	R7.7
累計処理頭数	22	65	※65
かさ高 (m)	0.5	1.8	1.8

材質：金属製管 ※R6年度は処理実績なし

兵庫署の実証データ (新宮滝谷国有林)

	R7.6		
累計処理頭数	45		
かさ高 (m)	1.3		

材質：ポリエチレン製管

ポイント！

○処理のポイント

- ・発酵促進剤として、1頭当たり500g程度のボカシを投入。
- ・個体の発酵を早めるためには、ウジの発生が重要なのでハエが出入りできる隙間を確保する。
- ・金属製の場合は、日照で表面温度が上がりすぎるとウジが発生しにくい場合がある。
- ・一度に多数の個体を投入すると、スムーズに発酵が進まないで処理個体数が多い場合は、大型排水管を数基設置し、ローテーションすることが効果的。

○国有林等における実証箇所

- ・和歌山森林管理署
(和歌山県日高川町内) 西ノ河 2 基・野々川国有林 1 基
(和歌山県印南町内) 川又国有林 1 基
(和歌山県上富田町内) 上富田町が民有地に設置を検討
- ・三重森林管理署
(三重県大台町内) 大杉谷国有林 3 基
(奈良県上北山村内) 環境省の連携捕獲事業で吉野熊野国立公園普通地域内の大台ヶ原周辺の民有地に 3 基設置

・兵庫森林管理署

(兵庫県たつの市内) 新宮滝谷国有林 1 基

○法令関係

- ・鳥獣保護管理法、鳥獣の保護及び管理を図るための事業を実施するための基本的な指針等に抵触せず、廃棄物処理法で禁止されている不法投棄に当たらないこと、恒久的な施設ではなく廃棄物処理施設に当たらないことを、担当部局に確認。

(参考) 近畿中国森林管理局管内国有林におけるシカ被害対策について ～地域連携～

○市町村、協議会等との協定によるシカ捕獲

森林管理署等では、市町村、協議会等と協定を締結することにより、捕獲場所の提供、わなの無償貸出、入林届の省略など、地域の鳥獣害対策と連携して取り組んでいます。
(令和7年7月末現在 11署46協定)

森林管理署等（協定数）	協定相手方（協定締結年度）
福井森林管理署（3）	大野市（R1）、福井県（R4） 南越前町（R5）
三重森林管理署（3）	上北山村・環境省近畿地方環境事務所（H29）、いなべ市鳥獣害防止対策協議会（R3）、伊賀市鳥獣害防止対策協議会（R3）
滋賀森林管理署（3）	米原市・米原市鳥獣被害防止対策協議会（H30）、滋賀県（R3）、大津市（R3）
京都大阪森林管理事務所（3）	京都市（H27）、高槻市・大阪府猟友会高槻支部（H27）、宮津市野生鳥獣被害対策運営協議会（R6）
兵庫森林管理署（7）	兵庫県神戸県民局（H24）、たつの市伝城山（H26）、丹波篠山市（H27）、たつの市野田山西（H29）、高砂市（H29）、宍粟市三谷自治会（H29）、姫路市（R3）
和歌山森林管理署（11）	高野町（R2）、高野山金剛峯寺・高野山寺領森林組合（R3）、有田川町鳥獣被害防止対策協議会（R4）、印南町鳥獣被害防止対策協議会（R4）すさみ町鳥獣被害防止対策協議会（R4）、上富田町鳥獣被害防止対策協議会（R5）、日高川町農業振興協議会鳥獣害対策部会（R5）、新宮市鳥獣被害防止対策協議会（R5）田辺市鳥獣被害対策協議会（R5）、みなべ町（R5）、北山村鳥獣被害防止対策協議会（R5）
鳥取森林管理署（2）	若桜町鳥獣被害対策協議会（H29）、八頭町鳥獣被害対策協議会（R1）
島根森林管理署（1）	島根県（R1）
岡山森林管理署（6）	津山市鳥獣被害防止対策協議会（H28）、真庭市鳥獣被害対策本部（H29）、岡山市・岡山地区猟友会（竜ノ口山）（R4）、岡山市・岡山地区猟友会（操山地域）（R4）、鏡野町鳥獣被害防止対策協議会（R5）、新見市鳥獣被害防止対策協議会（R6）
広島北部森林管理署（3）	安芸高田市・安芸高田市有害鳥獣捕獲班連絡協議会（R1）、神石高原町・神石高原町有害鳥獣捕獲対策協議会・神石郡森林組合・森林整備センター中国四国整備局広島水源林事務所（R2）、三次市（R7）
山口森林管理事務所（4）	美祢市有害鳥獣被害防止対策協議会・美祢猟友会（美祢地域）（R5）、美祢市有害鳥獣被害防止対策協議会・美秋猟友会（美東・秋芳地域）（R5）、下関市・美祢猟友会（R6）、長門市・俵山地区猟友会（R6）

（参考）近畿中国森林管理局管内国有林におけるシカ被害対策について ～ICTの活用～

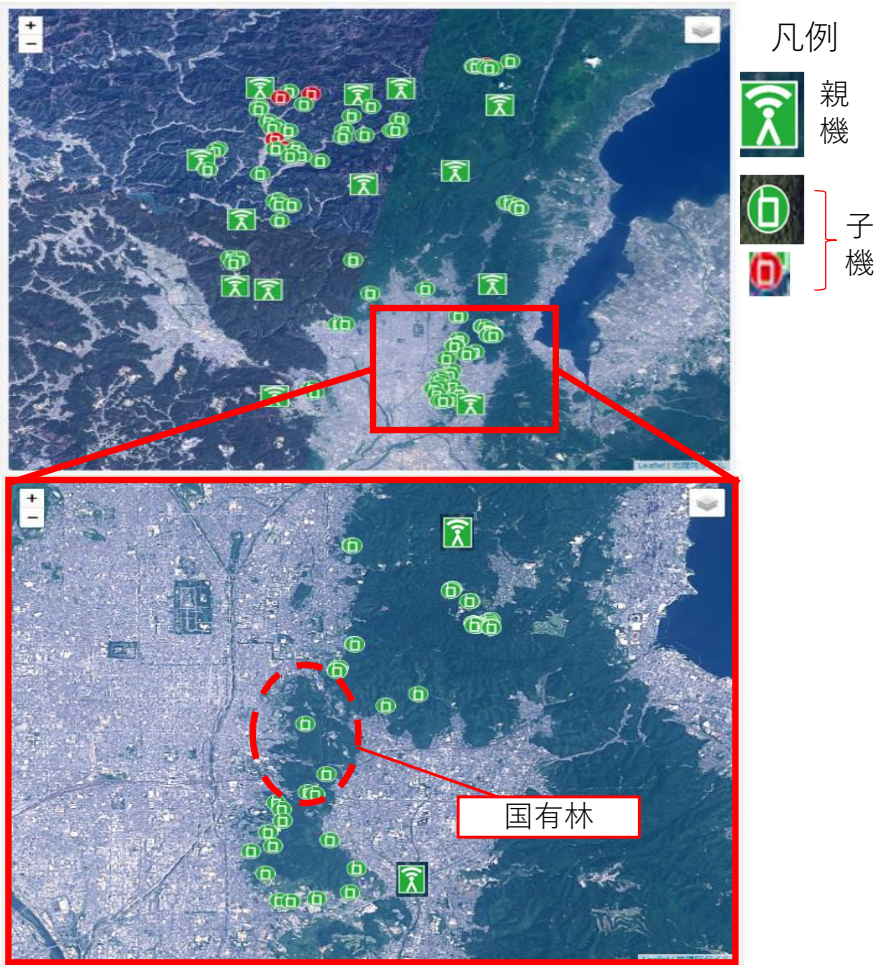
〇米原市と連携したICT機器（通報装置）の活用による鳥獣捕獲の効率化（京都大阪森林管理事務所事例）

京都市ではシカ、イノシシ等の有害鳥獣捕獲の効率化を図るため、LPWA（低消費電力の長距離無線）を活用しており、市内14ヶ所に親機を設置し、ほぼ全域をカバーする通信網を整備しています。

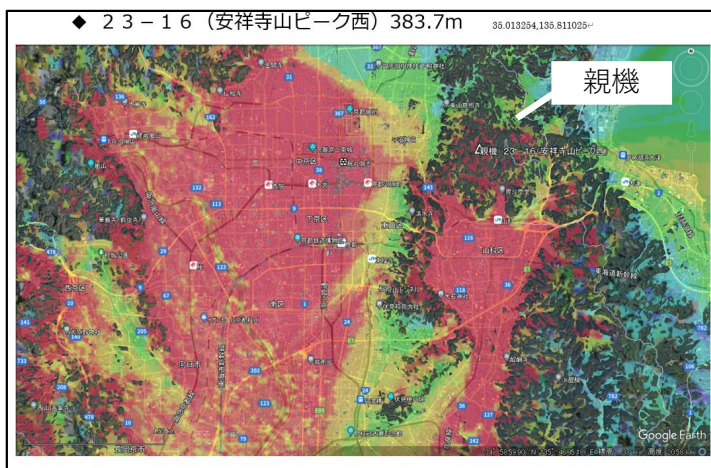
しかしながら、一部の捕獲現場では電波の届き難い状況にあったことから、京都大阪森林管理事務所では、京都市との協定に基づき、令和4年度に通報装置の子機を設置したほか、親機の追加設置により電波状況を改善するなど、各支部猟友会の捕獲活動の効率化を支援しています。

農林業被害の防止はもちろんのこと、世界的な観光都市である京都の安全・安心の確保にもつながるよう、京都市と連携して取り組んでいます。

【ほかパトの配置状況（京都市内全域）】



囲いわなと子機の設置状況



親機の設置状況

電波シミュレーションのイメージ
（京都市内）

○米原市と連携したICT機器（WEBAIゲート）の活用による鳥獣捕獲の効率化（滋賀森林管理署事例）

米原市の奥伊吹国有林並びにその周辺地域(奥伊吹スキー場)において、米原市と連携（米原市と協定）してカウントゲートシステム付き囲いわなによりニホンジカの誘引捕獲を実施しています。

WEBAIゲートかぞえもんAir捕獲システム



((株) 一成HP より)

米原市奥伊吹国有林でのICT囲いわなの設置・捕獲状況

ゲートに設置したセンサーでシカの出入り状況を把握し、設定した捕獲頭数以上の侵入があると自動でゲートを落とし捕獲する（多頭数捕獲）。

(参考) 近畿中国森林管理局管内国有林におけるシカ被害対策について

～ついで見回り・通報～

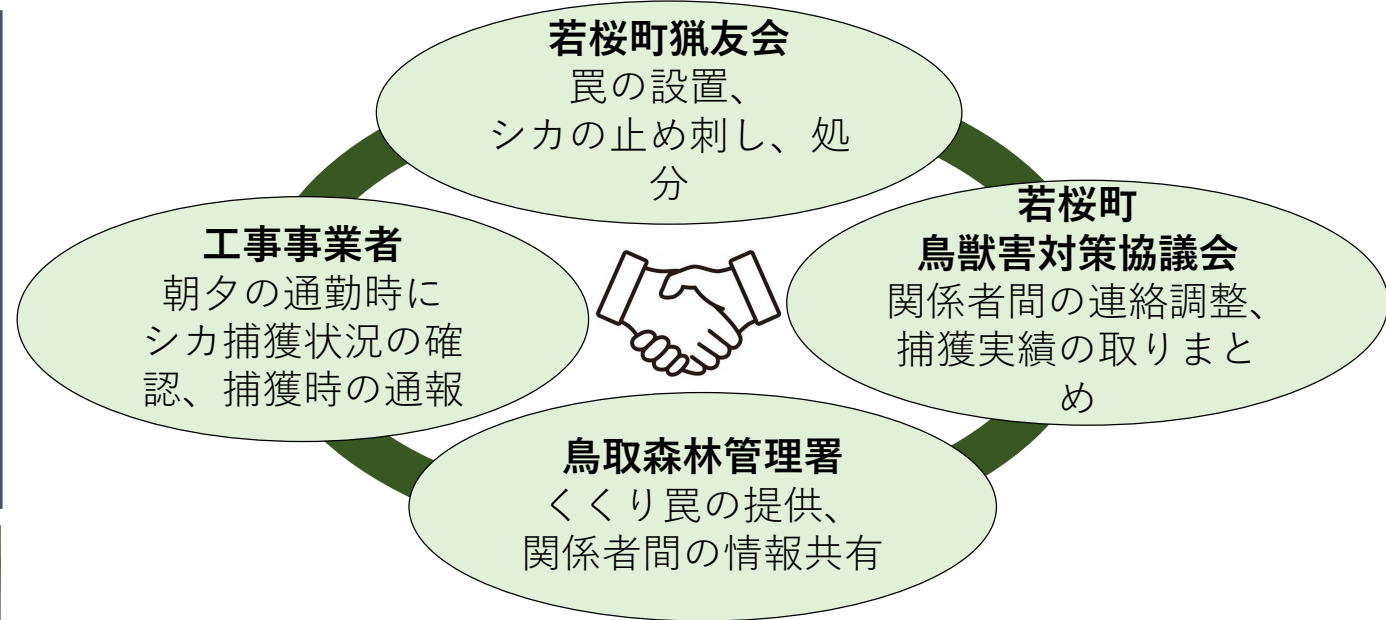
○林道等の工事事業者、地元猟友会等と連携したシカ捕獲（鳥取森林管理署事例）

鳥取森林管理署では、小舟山林業専用道新設工事において、工事事業者、若桜町猟友会、若桜町鳥獣害対策協議会と連携して、「ついで見回り・通報」に取り組んでいます。

「ついで見回り・通報」とは、猟友会等が設置した罠を工事関係者が現場への通勤等のついでに見回りを行い、捕獲や罠の異常があった際に猟友会等に通報する仕組みです。

活用のポイント！

- ・地元市町村、関係猟友会との連携が不可欠。
- ・通勤のついでに罠の状況を確認するので、餌で誘引する小林式誘引捕獲法との組合せが適している。
- ・林道事業のほか、治山事業、生産事業など、ある程度事業期間が長い事業での連携が適している。



令和4年6月に4者で連携協定を締結



確認しやすい林道周辺にわなを設置してテープで表示



猟友会、行政関係者を対象に小林式誘引捕獲の現地検討会を実施

(参考) 近畿中国森林管理局管内国有林におけるシカ被害対策について ～他省庁との連携～

○大台ヶ原・大杉谷地域におけるニホンジカ連携捕獲（三重森林管理署事例）

三重県と奈良県の県境に位置する大台ヶ原・大杉谷地域（吉野熊野国立公園内）は、近年ニホンジカの急激な増加に伴い森林生態系への被害が深刻化。

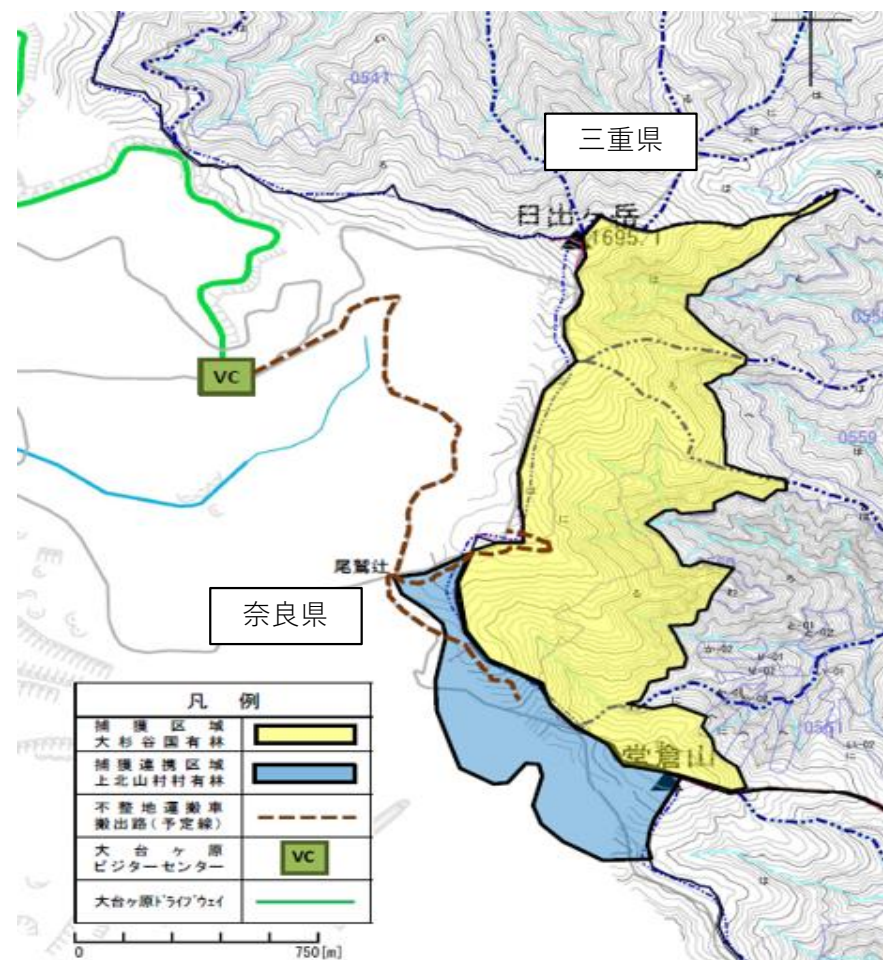
ニホンジカの生息密度を減らし森林生態系への被害を軽減させるためには、ニホンジカの行動域が複数の行政機関所管地にまたがっていることから、関係機関が「個体数調整をはじめとした総合的な対策」を実施していくことが重要。

平成29年に近畿地方環境事務所、上北山村、三重森林管理署が、当該地域の適切な管理を実施するため、連携強化及びニホンジカ対策の実施に資することを目的とし協定を締結。

○連携の取組

- ・各所管地間のシカ捕獲空白区域の解消
- ・近畿地方環境事務所、三重森林管理署の共同調達として同じ委託先に発注し、捕獲時期をあわせることにより捕獲効率向上
- ・捕獲個体の搬出ルート、処分地の共同利用(R5年度から大型排水管を活用)
- ・シカ捕獲に関する調査データの共有

	環境省事業		林野庁事業	
	総捕獲頭数	うち連携捕獲	総捕獲頭数	うち連携捕獲
平成29年度	72頭	10頭	53頭	3頭
平成30年度	66頭	8頭	65頭	5頭
令和元年度	138頭	4頭	72頭	9頭
令和2年度	91頭	3頭	81頭	26頭
令和3年度	77頭	3頭	37頭	12頭
令和4年度	158頭	9頭	85頭	19頭
令和5年度	107頭	10頭	73頭	12頭
令和6年度	75頭	9頭	48頭	13頭



(参考) 林野庁 森林における鳥獣害対策

森林における鳥獣害対策（事業）の体系

シカ等による森林被害緊急対策事業

令和7年度予算額：1億円

令和6年度補正：2億円

- ・森林における効果的なシカ捕獲の推進のため、ドローン等を活用した捕獲ポイントの特定調査や簡易な捕獲個体処理施設の配備等、捕獲に必要な条件整備に支援するとともに、国有林野内における国土保全のためのシカ捕獲を実施

治山事業（公共事業）

令和7年度予算額：625億円の内数

令和6年度補正：310億円の内数

- ・治山事業と一体的に行う防護柵等の鳥獣被害防止施設等の整備を支援

森林整備事業（公共事業）

令和7年度予算額：1,256億円の内数

令和6年度補正：506億円の内数

- ・森林整備と一体的に行う防護柵等の鳥獣被害防止施設等の整備や、被害森林におけるシカ等の捕獲・処分等を支援

鳥獣被害防止総合対策交付金

令和7年度予算額：100億円

令和6年度補正：53億円

- ・農地周辺を中心に侵入防止柵の設置や、捕獲活動の直接経費など市町村が主体となった地域ぐるみの被害防止の取組を支援
- ・地域の指導者や被害対策の中核となるコーディネーター等人材育成に支援

○森林・林業・木材産業グリーン成長総合対策のうち林業・木材産業循環成長対策

令和7年度予算額：62億円の内数

都道府県、市町村等が被害の状況を勘案し、地域の実情に応じて行う被害防止対策に支援

○森林・山村地域活性化振興対策

令和7年度予算額：10億円の内数

地域住民、森林所有者等が協力して実施する里山林の保全等（鳥獣害防止柵の設置・修繕等を含む）について支援